

人の情動読み取る時代に

NTTデータ経営研究所
情報未来研究センターコンサルタント

山崎 和行氏

画像認識とは画像情報から「どのようなものが写っているのか」を認識する技術である。今回は画像認識技術で「いまできること」「これからできること」を紹介する。

画像認識技術は現在、工業製品の不良品検出のような産業用画像処理、医療用画像からの病変部位検出などに活用されている。人間の目で評価・判断していた領域に導入することで、人間よりも正確、かつ短時間でできるようになる。作業の効率化や生産性の向上を実現している。



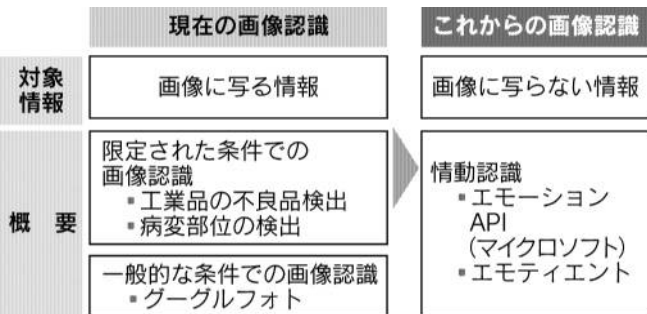
より一般的な状況での画像認識技術の開発も進んでいる。米グーグルのアプリ「グーグルフォト」はアップロードされた画像に写っている物体を自動的に判別し、「人」「木」「公園」などとタグ付ける。この技術は一般画像認識と呼ばれ、長ら

く画像認識での困難な課題の1つとされてきた。

しかし、深層学習（ディープラーニング）をはじめとする機械学習技術の発展で、ブレークスルーが起きつつある。画像を意味や内容に応じて分類・検索できれば、煩わしい写真の整理から解放される。検索エンジンに革命を起こす可能性もある。



今後は「情動認識」が画像認識のメインピックになるだろう。情動認識とは画像情報から人間の情動を認識する技術。主に顔表情や眼球運動などを対象とする。米マイクロソフトが顔表情から喜びや怒りなどの8種の情動を数値化する「エモーションAPI」をリリースし、米アップルは動画像情動認識サービスの米エモティエントを買収するなど、世界中の企業・研究機関がこぞって研究開発に注力している。



情動認識技術は現在、人間がコンテンツを視聴するときの情動を推測する評価サービスなどに活用されている。コミュニケーションロボットへの活用も進むはずだ。ロボットが人間の情動を理解し、円滑な対話ができるようになると、人間の真のパートナーとなる時代が近づく。

画像に写る物理的な情報を読み取る技術は完成しつつある。情動などの「画像に写らない情報」を読み取る技術が、次の主役になるだろう。

やまざき・かずゆき 脳科学の知見とマーケティング理論を組み合わせたコンサルティング、新規事業開発、脳科学とIT（情報技術）の融合領域の産業応用に取り組む。

